

第2章 文京区の地域特性

- 1 人口
- 2 自然特性
- 3 土地利用
- 4 文京区の特長

第2章 文京区の地域特性

1 人口

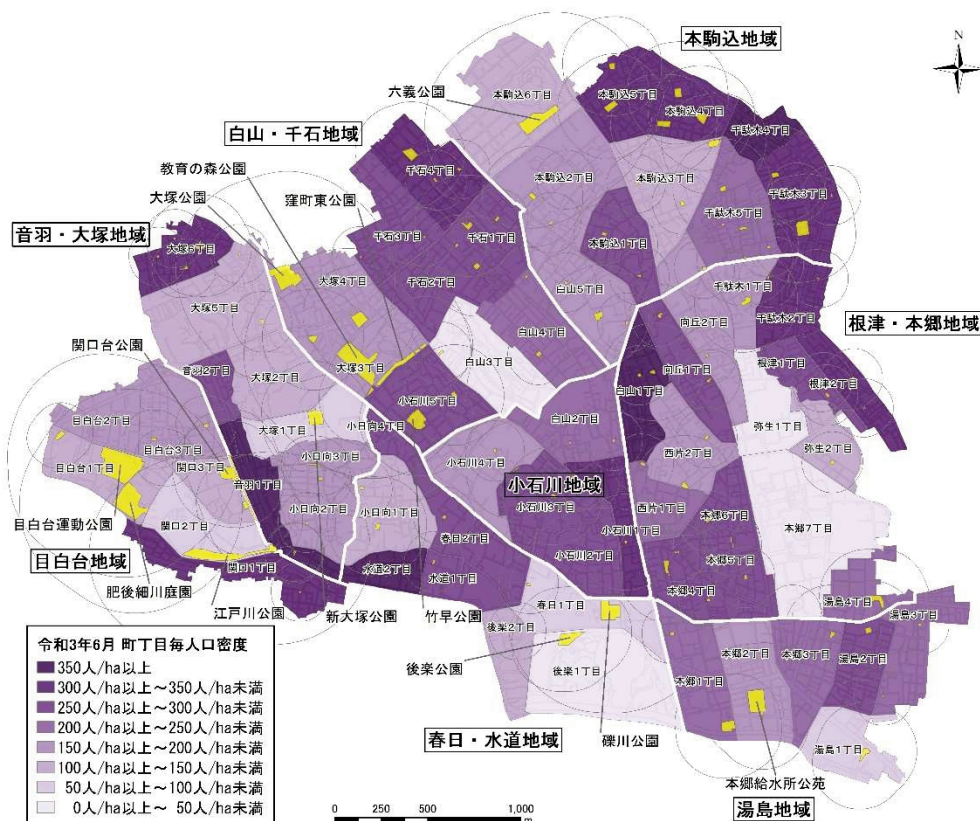
(1)人口推移

「文の京」総合戦略によると、文京区の人口は、平成7(1995)年以降年々増加し、現在も増加を続けています。将来人口については、全国的に人口減少が進む傾向となっていますが、文京区では、人口が増加傾向にあると考えられます。

年齢区分別に見ると、年少人口(0～14歳)及び生産年齢人口(15歳～64歳)は、減少する一方、老年人口(65歳以上)は今後も引き続き増加幅が大きくなると見込まれています。

(2)人口密度

地域別の人口密度(令和3年6月時点)をみると、区全体で約190人/ha、区の中央部に位置する小石川地域が約251人/haと最も多く、次いで区の東部に位置する本駒込地域が約225人/ha、区の中央部に位置する白山・千石地域が約221人/haとなっています。地域別の人口密度が最も少ない地域は、春日・水道地域で約144人/ha、次いで目白台地域で約161人/haとなっています。町丁目ごとに見ると、本駒込地域の千駄木4丁目、根津・本郷地域の白山1丁目、音羽・大塚地域の音羽一丁目、春日・水道地域の水道2丁目が特に人口密度が高くなっています。



文京区人口統計資料「町丁目別世帯・人口(住民基本台帳)令和3年6月」のデータを基に作成

図2-1 文京区の町丁目ごとの人口密度と公園配置

2 自然特性

文京区は、武蔵野台地が河川によって開析されてつくられた台地と谷と沖積低地からなる、20m前後の高低差を持つ起伏に富んだ地形となっています。江戸時代には、台地や崖線に沿って大名屋敷や武家屋敷が置かれ、これらの場所の幾つかは、現在も土地が人工的に造成されることなく、斜面状に自然のままの地形が残り、まとまった緑や湧水が現在も見られます。文京区の緑被率は、平成7(1995)年の16.0%から平成30(2018)年の18.4%と増加しています。また、緑被率に占める樹木緑被の割合が23区で最も高くなっています。(みどりの基本計画より)

区内の公園にも園内や隣接して斜面上の自然が残る公園もあり、魅力的な公園になっています。特に、区内中央部、南西部に湧水が見られます。こうした自然豊かで特徴ある地形からなる空間は、文京区らしい景観を構成し、多様な生き物の棲息が期待できる場にもなっており、近年の市街地化したまちの中で区の魅力を高めています。



図 2-2 文京区の自然特性

3 土地利用

文京区の土地利用方針図は図に示すとおりです。用途地域をみると、区内全域の約6割が住居系の用途地域になっています。台地部に住宅地が集約され、幹線道路沿いや低地部、区の南東部は商業系の用途地域になっており、就労者などが公園を利用することも考えられます。

また、都心にありながら比較的住宅が多く、特に、関口台地、小日向台地、白山台地の台地上には、低層な住居専用の地域が広がっており、都心の緑が少ない地域こそ、良好な住空間を形成する上で、公園は重要な役割を担っています。

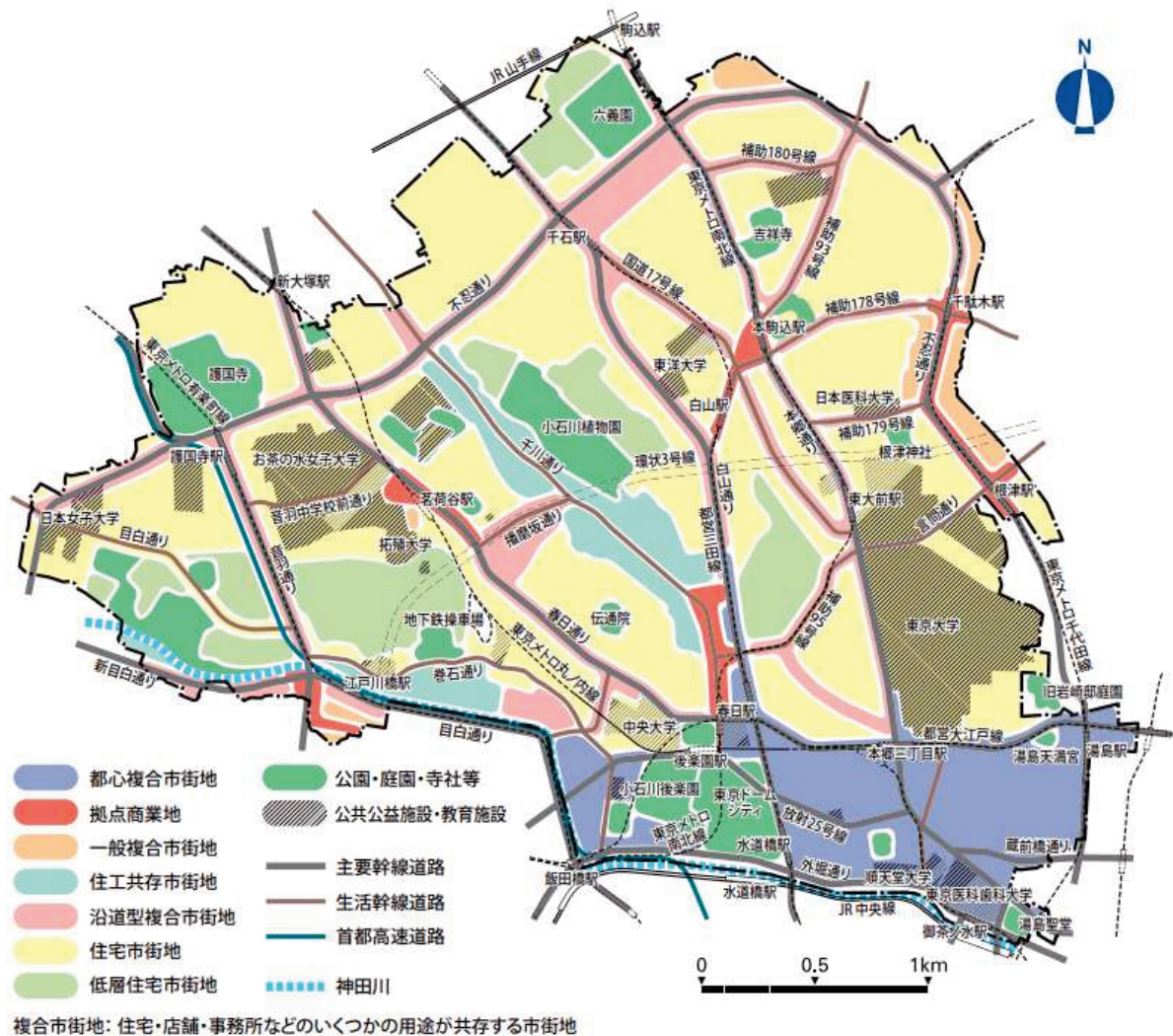


図 2-3 土地利用方針図

出典 文京区都市マスタープラン(平成 23 年)

4 文京区の特長

(1) 景観要素

神田川は、区内を流れる唯一の川であり、「東京都景観計画」において神田川の区域と川の両側からそれぞれ30mの区域は、神田川景観基本軸として設定されています。

また、文京区には現在に至るまで江戸時代の道が多く残っており、根津・千駄木や白山の界限などには、趣のある路地や路地沿いの植栽が見られます。特に、播磨坂通りは戦災復興の当初の思想が実現した美しい並木道となっています。

神田川に隣接している江戸川公園やまとまった緑を有している面積の大きな公園をはじめ、市街地における小さい公園は貴重な緑のオアシスとして良好な都市景観の形成に貢献しており、幹線道路や地域の街路樹、社寺等の緑とのネットワーク化により連続的に良好な景観形成も期待できます。

(2) 歴史・文化資源

文京区には、国指定文化財が16箇所(絵画・彫刻・刀剣等美術品及び典籍等を除く)存在しています。そのうち、小石川後樂園(特別史跡及び特別名勝)、六義園(特別名勝)、湯島聖堂(史跡等)の3箇所は、公園に隣接して立地しており、公園が観光に訪れた人々の休憩場所の役割も果たすとともに、歴史的な風物と一体となって地域の景観を形成しています。

さらに、江戸時代の大名庭園であった肥後細川庭園や震災復興計画に基づく公園である元町公園など、歴史性を有する公園もあります。

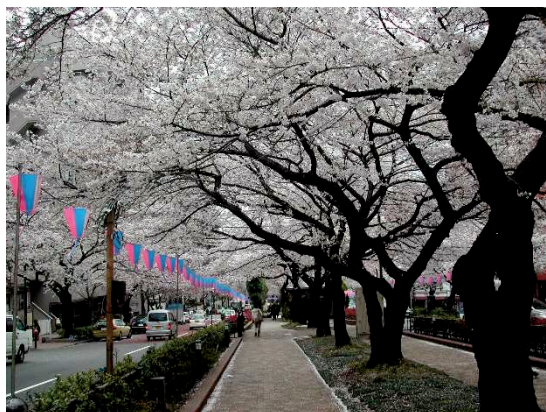
(3) 教育機関の集積

文京区には、東京大学・お茶の水女子大学などの大学をはじめ、多くの教育機関が立地しており、優れた研究や技術情報、人材を生み出す環境となっています。大学の立地は、学生アルバイトなどの労働力の確保を容易にし、地域社会を応援する貴重な人材の提供を可能としています。特に、高等学校は多く集中し、教育環境に恵まれています。これらの教育機関は区の全域に立地していますが、特に区の中央部に多く立地しています。

多くの教育機関が立地していることは、公園の管理運営などのボランティア活動への参加が期待できる人材に恵まれているといえます。また、公園は、区民や就労者だけでなく、就学者の憩う場となることも考えられます。



神田川沿いの桜



播磨坂通り